

2024 年度本学学生の進路・就職状況について

名和 直美

2024 年度の卒業生は 1,488 名、この学生たちの進路・就職状況について、以下に報告する。

1. 進路・就職状況

リクルートワークス研究所の 2024 年 4 月調査によると、2025 年 3 月卒業の大学生・大学院生対象の民間企業求人倍率は 1.75 倍となった。新型コロナウイルス感染症による影響として 2022 年卒者の求人倍率が 1.50 倍となったが、その影響が終息し経済が回復してきたことと、人口減少を見越した強い採用意欲から、求人倍率も順調に持ち直してきており、売り手市場とされた 2020 年の数値（1.83 倍）に迫ってきている。業種別に見ると、建設業、製造業、流通業などは、人手不足の状況が変わらず求人倍率は高いが、金融業は 0.23 倍と 1 倍を切る数値が続いている。また、従業員規模別の調査を見ると、従業員数が少ない企業ほど求人倍率が高くなっており、300 人未満の企業では 8.98 倍と、コロナ禍前のピーク時に迫る数値に戻っている。

2024 年度の卒業生のうち就職を希望した者は 1,285 名（86.4%）、そのうち就職決定者は 1,277 名（85.8%）、就職希望者に対する就職決定率は 99.4% となり、前年度から 0.6 ポイント上昇した。文部科学省・厚生労働省の共同調査によると、今春の大学卒業者の就職率は全国平均で 98.0% となり、前年度を 0.1 ポイント下回った。女子に限定すると 98.5% となり、前年度を 0.2 ポイント上回る結果となっている。

大学院等進学者は 126 名（8.5%）であった。また、「その他」と分類される者の中には、次年度に公務員・教員採用試験の受験をめざす者、留学予定の者等が含まれている（いずれも令和 7 年度学校基本調査確定値、表 1 を参照）。

就職先を業種別に見ると、「サービス」が最も多く、以下「情報通信」、「金融・保険」、「卸・小売」、「製造」、「公務」と続く。職種別で見ると、事務、営業が多くなっているが、教員、栄養士、設計など、学びを生かした専門職に就く卒業生が多い学科もある。

2024 年度就職活動では、インターンシップまたはオープンカンパニーへの参加が採用選考の入り口になり、そこから早期選考、内定へとつながる流れが定着した。2 年次からセミナーに参加し、3 年次前期にはインターンシップ等の応募に関する就職相談を利用する学生が増えたが、インターンシップ等への参加や選考通過が目的になってしまった学生も見受けられた。特に早期選考の流れにうまく乗れなかった学生の中には、焦りが先に立ち、自身の適性や価値観、企業の事業内容や職種の理解が不十分なまま本選考に臨んでしまい、納得のいく結果を得られず就職活動が長期化したケースも多く見られた。

また、学生が AI を活用する場面が増えているが、企業側でも選考の初期の段階で AI による書類選考や面接を導入する例が増えている。面接については、コロナ禍でオンライン面接が定着したが、最終的には直接会って人物を見極めたいという企業の意向は依然と

して強く、表情や視線など非言語的コミュニケーションが改めて重視されている。

2. 今後の展望

インターンシップが4タイプに分類され、さらに学生の個人情報の使用に関する変更があったが、この変更内容が企業に正確に浸透しないまま、インターンシップやオープンカンパニーが実質的な採用選考の入り口になり、就職活動の早期化を招いている。企業の担当者からは「同業他社の動きにあわせざるを得ない」との声も多く聞かれ、結果として早期化した採用活動が定着している。

さらには「通年採用」を導入し、時期を問わず選考を実施する企業も出てきている。また、職種ごとに採用を行う「ジョブ型採用」が日本企業の中にも広まりつつある。就職活動が早期化した学生にとって、ジョブ型採用の就職活動を進めていくには、企業や仕事について十分に理解し、自己の適性を見極めるための準備期間が短くなっている。

このような状況で、学生が自らの将来を考える機会として、実際の業務を体験できるインターンシップへの参加がますます重要だと思われる。学生が生涯にわたるキャリアを築くための最初の入り口として就職先を選択できるよう、また同時に企業が入社後に戦力となる人材を見極めて採用できるよう、非常に負担が大きいとは思いますが、企業には就業体験を重視したインターンシップの実施を検討いただきたい。

現在の社会情勢は不安定であり、これからの社会を支えていく若者にとって課題が大きい。こうした状況の中、学生生活は、社会の構成員として自立する前の貴重な時間である。正課の授業や課外活動を通して自分自身の将来を主体的に考えながら、社会に出る準備を進めていってほしい。

(なわ なおみ キャリア支援課長)

表－1 2024 年度卒業生 進路状況

令和7年度学校基本調査確定値（5月1日現在）

学部	学科	卒業者数	就職希望者数 就職希望率	就職者数 就職率①	就職率②	大学院進学者数 大学院進学者率	大学・短期大学・専攻科・別科進学者	その他
家政学部	児童	91	86 94.51%	86 98.85%	100.00%	4 4.40%	0.00%	1 1.10%
	食物	79	71 89.87%	71 100.00%	100.00%	8 10.13%	0.00%	0.00%
	住居	102	70 68.63%	69 94.52%	98.57%	29 28.43%	0.00%	4 3.92%
	被服	87	70 80.46%	70 85.37%	100.00%	5 5.75%	0.00%	12 13.79%
	家政経済	83	80 96.39%	80 96.39%	100.00%	0.00%	0.00%	3 3.61%
	小計	442	377 85.29%	376 94.95%	99.73%	46 10.41%	0.00%	20 4.52%
文学部	日本文	120	107 89.17%	106 90.60%	99.07%	3 2.50%	0.00%	11 9.17%
	英文	150	132 88.00%	130 89.66%	98.48%	4 2.67%	1 0.67%	15 10.00%
	史	87	80 91.95%	79 95.18%	98.75%	4 4.60%	0.00%	4 4.60%
	小計	357	319 89.36%	315 91.30%	98.75%	11 3.08%	1 0.28%	30 8.40%
人間社会学部	現代社会	117	114 97.44%	114 97.44%	100.00%	0.00%	0.00%	3 2.56%
	社会福祉	105	102 97.14%	102 98.08%	100.00%	1 0.95%	0.00%	2 1.90%
	教育	91	83 91.21%	83 94.32%	100.00%	3 3.30%	0.00%	5 5.49%
	心理	75	57 76.00%	57 87.69%	100.00%	10 13.33%	0.00%	8 10.67%
	文化	115	104 90.43%	101 89.38%	97.12%	2 1.74%	0.00%	12 10.43%
	小計	503	460 91.45%	457 93.84%	99.35%	16 3.18%	0.00%	30 5.96%
理学部	数物情報科	84	65 77.38%	65 98.48%	100.00%	18 21.43%	0.00%	1 1.19%
	化学生命科	102	64 62.75%	64 92.75%	100.00%	32 31.37%	1 0.98%	5 4.90%
	小計	186	129 69.35%	129 95.56%	100.00%	50 26.88%	1 0.54%	6 3.23%
	合計	1,488	1,285 86.36%	1,277 93.69%	99.38%	123 8.27%	2 0.13%	86 5.78%

就職率①：「就職者数」／「卒業者数」－「大学院進学者数」－「大学・短期大学・専攻科・別科進学者数」

就職率②：「就職者数」／「就職希望者数」

その他：専修学校、外国の学校等進学者、教員・公務員受験準備等
端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある